きつねとおおかみ

オランダ

昔むかし、あるところに、きつねとおおかみが、となりどうしに住んでいました。

あるとき、きつねとおおかみは、お百姓の家から、バターのいっぱい入ったたるを盗(ぬす)み出しました。そして、それをだれにも見つからないように遠くの森の中に隠(かく)しました。

ある日のこと、きつねは、バターをひとりでたっぷり食べたくなりました。けれども、バターを隠した森まで行くには、遠い道を行かなくてはなりません。そこで、きつねは、おおかみの所に長ぐつを借りに行きました。

「すみませんが、長ぐつを貸していただけませんか」

「何のために長ぐつがいるんだね」と、おおかみは聞きました。きつねは、

「親戚(しんせき)に子どもが生まれたので、お祝(いわ)いに行くんですよ」と答えました。

「じゃあ、よかろう」と、おおかみはいって、長ぐつを貸してくれました。

きつねは、長ぐつをはいて、出かけて行くと、たるの上のほうのバターを食べました。

きつねが帰って来ると、おおかみは、

「生まれた子どもには、何て名前がついたんだね」とききました。きつねは、

「はじめちゃんっていうんです」と答えました。

「なかなか、かわいい名前だなあ」と、おおかみはいいました。

それからしばらくすると、きつねは、また、バターを食べたくなりました。そこで、おおかみの所に長ぐつを借りに行きました。

「また親戚に子どもが生まれたので、お祝いに行くんですよ」

きつねは、長ぐつをはいて出かけて行くと、たるのなかほどまでバターを食べました。

きつねが帰って来ると、おおかみは、

「生まれた子どもには、何て名前がついたんだね」と聞きました。きつねは、

「たるのなかほどちゃんですよ」と答えました。

「前よりもっとかわいい名前だなあ」と、おおかみはいいました。

しばらくすると、また、きつねは、バターを食べたくなって、おおかみの所に長ぐつを借りに行きました。

「また親戚に子どもが生まれたんですよ」

きつねが帰って来ると、おおかみは、
「生まれた子どもには、何て名前がついたんだね」と聞きました。
「たるのそこちゃんですよ」
それからしばらくして、また、きつねは、長ぐつを借りに行きました。おおかみは、いやな気がして、
「いったい、子どもが何人生まれるんだね」と聞きました。きつねは、
「いえいえ、これが最後ですよ」と答えました。
「それなら、まあいいから、長ぐつをはいていけ」と、おおかみはいいました。
きつねは、出かけて行って、バターをすっかりなめてしまいました。それから、たるに石をつめて、一番上にうすくバターをぬっておきました。
きつねが帰って来ると、おおかみは、
「生まれた子どもには、何て名前がついたんだね」と聞きました。
「からっぽちゃんですよ」
しばらくして、きつねは、おおかみにいいました。
「いっしょにたるの所に行って、バターを食べましょう」
にひきは出かけて行きました。けれども、どちらから先に食べるかでけんかになりました。そこで、くじ引きをして、まずおおかみから食べることになりました。おおかみは、大きな口を開けて、バターにかぶりつきました。ところが、バターは薄(うす)く塗(ぬ)ってあるだけで、おおかみの口には石がどっさりころがりこみました。おおかみは、かんかんに腹を立てていました。
「おい、きつね。おまえは、生まれた子どものお祝いに行くといって、ここへバターを食べに来てたんだな」
きつねは、
「まさか。あなたこそ、わたしが出かけているあいだに、こっそりバターを食べたんじゃないですか」といいました。
にひきは、しばらくいい合っていましたが、そんなことをしていてもどうにもなりません。バターのたるは、いつまでたってもからっぽです。それで、あきらめて帰ることにしました。
とちゅうで、年とった馬が、水たまりで、どろに足を取られて動けなくなっていました。

にひきは、馬を連れて帰って料理して食べることにしました、きつねが、
「おおかみさん、あなたは強いから、体に馬のしっぽをまき付けて引っ張ってください。わたしは、後ろから、枝(えだ)で馬のおしりをたたいて追い立てるから」
おおかみは、水たまりに入って行って、馬を引っぱり出しました。ところが、馬は、どろから抜(ぬ)け出すと、そのままさっさと走りだしました。おおかみは、馬のしっぽに引きずられ、さんざんな目にあいました。ようやく体をひき離して、にひきは帰って来ましたが、馬を手に入れることはできませんでした。
うちに着くと、おおかみは、だんろの側(そば)にすわって、ずぶぬれの体をかわかしました。そしてそのうち、ぐっすり眠(ねむ)りこんでしまいました。すると、きつねがそっとやって来て、おおかみのしっぽの下にバターをくっつけました。バターは、だんろの暖かさでとけ始めました。きつねは、おおかみを起こして大きな声でいいました。
「ほら、ごらんなさい。あなたがバターを食べたんだ。おしりから、バターがとけて流れ出ているよ」

村上郁再話

資料『世界の民話オランダ・ベルギー26』小澤俊夫訳／ぎょうせい